

令和5年度 学校関係者評価書

鈴鹿市立石薬師小学校

NO. 2

評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	学校関係者評価	今後の改善点
人権教育・特別支援教育	<p>1 人権教育の推進                      ・児童理解のレポート研修, 全体研修会                      ・人権教育の推進, 全校児童の人権意識の向上 →アンケートで検証</p> <p>2 多様性を認め合う教育                      ・特別支援教育の研修, 特別支援学級・通級指導教室公開                      ・多文化共生教育 →多文化共生の授業</p> <p>(成果と課題)                      レポート研修で情報共有を共通通識をもって指導できた。人権集会で人権を大切にする気持ちを全校で共有した。                      「友だちに思いやりの気持ちをもっていますか」肯定割合 96%                      特別支援教育の研修を深め, 特別支援学級の理解授業を行った。                      多文化共生への取組は全学年で学年に応じて行った。</p>	<p>・児童間での他の子への思いやりや、困っている子へのフォローをする姿が垣間見える。                      ・多様性の時代といわれる昨今、多様性を認め合う教育は必要であると感じる。子どもの中に暴言や偏見が見られたら、その場その時の対応をしてもらうことが大切。                      ・石薬師小でも「多文化共生」の機会が増えてくるように思うので、その時に慌てないよう取組を進めてもらいたい。                      ・PTAとしても、外国のご両親に対して、活動への理解を深めることも今後の課題と思う。                      ・各種研修会が実施され、アンケートでも検証できている点が評価できる。</p>	<p>・年間計画の中に多文化共生教育のカリキュラムを入れておく。                      ・問題行動に対しては、その場その場で気づいた教員が対応するとともに、日常生活の中で指導していく。関わり方を工夫して対応していく。</p>
生活指導	<p>1 基本的な生活習慣の定着                      ・「あすなろ☆」を通年指導(あいさつ, スリッパ, なかよく, 廊下歩行, チャイムを守る)                      ・児童会中心であいさつ運動→アンケート</p> <p>2 いじめの未然防止, 不登校の未然防止                      ・自己肯定感の推移 →アンケートで検証 →いじめアンケート                      ・スクールサポートを活用した児童支援</p> <p>(成果と課題)                      アンケートの結果から、基本的な生活習慣の定着については、できていない児童が一定数いることがわかった。                      「自分にはよいところがあると思いますか」積極的肯定割合は56%で、昨年より向上した。                      「いじめをなくそうとしていますか」肯定割合は93%となっており、昨年を少し上回ったが、積極的肯定割合は66%にとどまっている点が課題。</p>	<p>・学校の取組は定着していると思うが、今後も「生活指導」は家庭とのさらなる連携が課題と感じる。                      ・地域の方から、挨拶の声が小さくなってきているとの声がある。                      ・自己肯定感をもつ子どもの割合が増えているのはよい傾向だと思う。身近に関わる人からの言葉が大事だと思うので、家族からはもちろん、先生の言葉がけも大切、今年は先生からのポジティブな言葉がけが多かったように感じられる点はよい。                      ・基本的な生活習慣の定着には、まず「スリッパをそろえる」を徹底するのがよいと思う。その点、トイレ等の整理・整頓がまだ不十分などところがあるように思う。</p>	<p>・挨拶の声が少なくなってきた点を課題とし、児童会を中心とした朝のあいさつ運動を継続するだけでなく、教職員からもこれまで以上に積極的にあいさつをしていくことで改善につなげていきたい。                      ・いじめをなくそうとする積極的肯定割合を上げるために、日頃からいじめは許されないことを子どもたちに話していく。</p>
健康・安全・体力向上	<p>1 体力向上・体を動かす取組 →体力テスト, スポーツ出前授業の活用                      2 交通安全教育・防災防犯教育                      ・交通安全教室, 避難訓練, 引き渡し訓練, 防犯教室, モバイル教室 →保護者と連携, 事故件数で検証                      3 食育・アレルギー対応 →食育授業回数 →アレルギー研修</p> <p>(成果と課題)                      すべての項目において、予定通り実施できた。                      児童の交通事故件数は0件であった。</p>	<p>・まだまだ子どもたちの交通安全は改善の余地があるように思う。保護者とともに考えられる機会があるといいと思う。                      ・交通事故後0件はよかったが、「ヒヤリハット」件数はかなりあるのではないかと感じる。青パトで巡回していると、運よく0件なのかと思う。                      ・能登半島地震もあり、子どもたちの意識の中に怖さもあると思うので、避難訓練などを通して、自分の身を守る意識を高めてもらいたい。                      ・体を使って遊ぶことが少なくなってきたので、体育の時間などで、運動する楽しさを味わえるといいと思う。</p>	<p>・1学期に行う交通安全教室だけでなく、2学期以降も交通安全について考える機会を作る。                      ・地震等の災害発生時に自分の身を守る行動がとれるよう、避難訓練時を中心に啓発することを重視していく。                      ・今年度新たに始めたおおなわ大会などの行事を、今後も継続していく。</p>
教職員の働き方改革	<p>1 会議の時間短縮 PC利用促進 →60分以内に終了する会議の割合                      2 時間外労働時間の短縮                      定時退校日の設定 スクールサポートスタッフの有効活用 →時間外労働時間                      3 休暇取得日数 →一人あたりの休暇取得日数平均</p> <p>(成果と課題)                      会議の時間短縮の達成率は85.7%、定時退校日の達成率は95.3%であった。時間外労働時間は1月末時点で、昨年度より約13時間少なくなっている。休暇取得日数は1月末時点で、昨年度より約4日少ない。業務内容の見直し及び精選がある程度進んでいると思われるが、引き続き取り組む必要があると考えられる。</p>	<p>・改善している点もあると思われるが、さらに業務の精選が必要ではないか。                      ・会議や事務仕事の効率化を進め、教員の負担を減らす取り組みを今後も強化していただきたい。                      ・働きやすい教育現場になっていくことが、教職を目指す学生が増えていくことにつながると思うので、さらなる働き方改革を進めてもらいたい。</p>	<p>・2部会→企画委員会                      →職員会議と、提案のための議論を効率的にし、PC利用促進で会議の時間短縮につなげていきたい。                      ・時間外労働時間の減少や休暇取得については、一人ひとりの意識を改革するとともに、定時退校日の設定や互いの声掛けをしていきたい。</p>